

日本生産性本部が企業の経営幹部育成研修サービスで新機軸を打ち出した。対象を従来よりも引き下げて「リーダー・課長層」としたことが特徴で、同様の研修はまだ珍しいという。日常業務では習

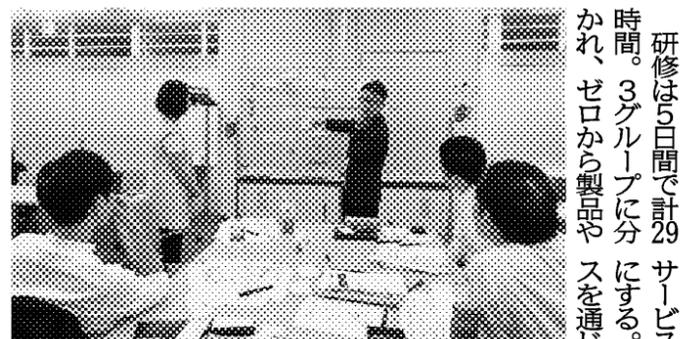
### 生産性本部

得が難しい経営スキルの基礎を学べるプログラムを展開し、幹部候補を早い段階からプールの育成したいとの企業ニーズに応える。生産性本部が7月に始めた幹部育成研修「ザ・ネクスト・リーダー・アクセラレーション」だ。

## 経営幹部育成で新機軸

# 「リーダー・課長層」対象に

「リーダー・課長層」を対象とした研修は、従来よりも引き下げて「リーダー・課長層」としたことが特徴で、同様の研修はまだ珍しいという。日常業務では習



「リーダー・課長層」を対象とした研修は、従来よりも引き下げて「リーダー・課長層」としたことが特徴で、同様の研修はまだ珍しいという。日常業務では習

## 社外との仲間作り支援

「実務ではあまりで きない貴重な経験だっ た」「参加者のアンテナの感度に刺激を受け た」など、受講者から の評価はおおむね好評 という。一方、受講者 全体での横のつながり の醸成はまだ不十分と いった課題も浮き彫り になった。2025年 度は研修日を1日増や すなど拡充して展開す る計画だ。

生産性本部がNLA Pを始めたのは、既存 の幹部育成研修の顧客 企業から「さらに下の 階層向けの研修を」と 求められることがきつ くなった。人材を資本とし て捉え、その価値を最大限に引き出す人的資本経営の重要度が増す中、早期から幹部候補生を選定し育成を始めた企業ニーズは大きく なっている。また転職 が一般化する中、「エ ンタープライズ社員に早い段階から目をかけてエンゲージメント（愛着）を高めた」との需要も高まってきている」（鷺北 課長）とみる。

今後、企業の早期からの幹部育成成熟は高まるのか、次の次の幹部育成研修サービスは広がりを見せるのか注目がされる。